

# よなごびと

| 第81回 |

マスターズ体操女子 2025 日本代表

いくた **生田** もとこ **素子** さん (写真右)

てらざわ **寺澤** **ゆかり** さん (写真左)



いつまでバク転できるかな

体操発祥の地といわれるドイツで6月に開催されたマスターズ体操ワールドカップ。夢の世界大会に生田さん(66歳)と寺澤さん(65歳)は日本代表として出場しました。

2人が体操を始めたのは、中学校の部活動。「皆生海岸で砂にまみれて宙返りの練習をしていた」と寺澤さんは当時を振り返ります。2学年差の2人は、米子西高校から筑波大学まで同じ体操部で切磋琢磨し、卒業後は米子市内の高校で教員となりました。40年前に開催されたわかつり国体では、生田さんが監督、寺澤さんが選手キャプテンとして出場し、鳥取県体操成年女子チームは団体2位という成績を残しました。その後、教員として生徒へ

の体操指導は行っていたものの、自身の競技からは離れていた2人に、50歳代前半で転機が訪れます。大学時代に共に体操をしていた仲間からの誘いで、マスターズの大会に出場することに。その後も10年以上、「体操を愛する仲間たちに会いに行くため」年に一度の大会へ出場を続け、今年初めて世界大会にも出場しました。「お互いに支え合って一緒だったから頑張れた」と2人は目を細めます。

今後については「いつまでバク転ができるかなと思っっている」と笑う生田さんを見て、寺澤さんはうなずきながらほほ笑みます。「けがなく、正確に、美しい体操をしていきたい」と、2人は情熱を燃やし続けます。



共に世界に挑んだ日本代表女子チームのメンバーと。2人は後列中央。



6月にドイツで行われたマスターズ体操ワールドカップ・ゆかの演技。